

グライダーの啓蒙・啓発・普及にかかる事業

フライングクラブ

操縦免許取得者のために、フライングクラブを運営しています。会員の自家用機レジャーフライトのニーズに応えるために、曳航、駐機場、整備・耐空検査、技量維持の訓練等に関して支援体制を整えています。



体験飛行・グライダー教室

グライダーの認知度を上げるために、飛行や操縦に興味のある方を対象とした体験飛行や、グライダーの構造や操縦方法の簡単な説明を交えたグライダー教室を、ホームページ等を通じて募集し、随時開催しています。



地域交流・イベント参加



地元のイベントや地域交流会に参加し、グライダー運航に対する理解を深めていただく他、機体展示等を通じてグライダーの認知度向上に努めています。

広報活動



ホームページを充実させて、適確な情報提供を行っている他、テレビ、新聞、雑誌等メディア取材に協力し、グライダーの認知度向上に貢献しています。

若年層・学生支援



学生の合宿の積極的な受け入れや、料金の優遇措置、運航の手伝いをすると飛行ポイントを獲得できるラインボーイ制度を導入し、若年層の活動を支援しています。

クラブ所有の航空機

板倉滑空場で、フライトトレーニングや体験飛行に活躍しているクラブ機です。



複座練習機 ツイン (2機)



単座機 アステアCS



動力滑空機 スーパーデモナ



曳航機 ハスキー

滑空場施設概要



格納庫



整備実習スペース



サロン(談話室)



整備スペース

* 男女別宿泊施設、男女別バス・トイレ、キッチン、パティオ完備

板倉滑空場へのアクセス



格納庫全景

電車: 東武日光線 藤岡駅下車 車で約5分
自動車: 東北自動車道 館林インター下車 約15分

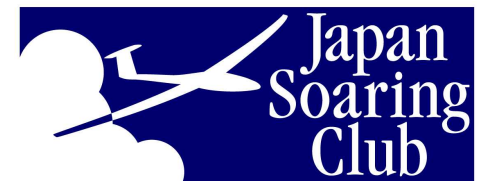
公益社団法人日本グライダークラブ

板倉滑空場
住所: 〒374-0101 群馬県邑楽郡板倉町除川 1286
TEL/FAX: 0276-77-0830 座標: N 36°15.875' E 139°37.987'

東京事務所
住所: 〒105-0004 東京都港区新橋 1-18-1(航空会館 9F)
TEL: 03-3591-7728 FAX: 03-3591-7726
E-mail: shinbashi-office@glider.jp
URL: www.glider.jp



公益社団法人日本グライダークラブ 公益事業ガイド



www.glider.jp

公益社団法人日本グライダークラブ定款

(目的) 第3条

本クラブは、体験搭乗及び操縦・整備技術の伝承並びに国際交流を通じ、グライダースポーツ文化の向上・振興を図り、もってわが国のグライダー界の発展に資することを目的とする。

(事業) 第4条

本クラブは、前条の目的を達成するために、次の事業を行う。
1) グライダーの啓蒙・啓発・普及に関する事業
2) グライダー及び曳航機の操縦技術の向上及びその指導者の養成
3) グライダーの操縦技術、整備技術等、及び安全運航・事故防止対策に関する研究並びにその施策。
4) グライダー及び関係する装備・計器などの設計・製作・整備・修理・改造
5) この事業に必要な機材、施設、設備などの整備及び人材の養成

日本グライダークラブの歴史

第2次世界大戦で敗戦国(被占領国)となった日本は、戦後その上空を自国の航空機が飛ぶことは許されていませんでした。昭和26年(1951年)9月8日、歴史の教科書に載っている「サンフランシスコ講和条約」の調印式で、日本全権の吉田茂首相が48カ国の各国代表と共に署名して、やっと日本(領土+領海+領空)は日本人の手に戻ることになりました。
条約発効後いち早く、「日本人が日本の航空機で日本の空を飛ぶ」ために、当時の空の第一人者と空を愛する仲間が集まり、「日本グライダー倶楽部」が発足しました。昭和26年10月1日に日本工業倶楽部で行われた発会式には、当時の日本の航空界を代表する重鎮のほとんどが出席しています。例えば、クラブの会長であり前大蔵大臣の泉山三六氏、時事新聞(現 読売新聞)社長の長谷川次氏、後の日本航空社長・会長の松尾静庵氏、後の日本エアシステム社長の長瀬哲夫氏などです。



日本グライダークラブ発会式
昭和26年10月1日

パイロット養成事業

パイロット養成コース

指定養成施設(国交省認可)

当クラブは国土交通省の認可を受けた指定養成施設です。入所から合格まで、滑空機の自家用操縦士の養成を行っています。



グライダー免許

グライダーの自家用・事業用・教育証明取得に必要な、教材開発、学科及び操縦教育、試験立会いを行っています。



モーターグライダー免許

モーターグライダーの自家用・事業用・教育証明取得に必要な、教材開発、学科及び操縦教育、試験立会いを行っています。



曳航パイロット

グライダーの曳航に必要な曳航機を運航するために必要な技術と知識の教育と、定期的なブラッシュアップ訓練を行っています。



アドバンス・フライトコース

グライダー距離飛行

グライダーの距離飛行を安全に実施できるようになるために必要な知識・技能の習得のための学科及び操縦教育を行っています。



モーターグライダー距離飛行

モーターグライダーの距離飛行安全に実施できるようになるために必要な知識・技能の習得のための学科及び操縦教育を行っています。



ウェーブ(山岳波)飛行

ウェーブ(山岳波)を利用して、安全に高高度、長距離を飛行するために、技術研究開発及び必要な知識と技術の教育を行っています。



山岳飛行

リッジソアリングや山岳飛行を安全に行えるようになるために、技術研究開発及び必要な知識と技術の教育を行っています。



異常姿勢回避訓練(EMFT)

スピン、失速、低空索切れ等を模擬し、事故に近づきつつある状況を認識し、適確に回避操作を行えるよう、学科と実地訓練を行っています。



アクロバット飛行

ベーシックアクロバットから競技会出場を目指せるようになるまで、レベルに応じての学科講習とアクロ専用機による実地教育を行っています。



滑空記章

日本滑空記章・国際滑空記章への挑戦を、技術向上のために推奨しており、滑空記章試験員・公式立会人の養成を行っています。



特定操縦技能審査制度

操縦技能審査員の養成と技能審査の施設の提供を行います。クラブでは法制化に先立ち、毎年の技能審査を制度化した実績があります。



グライダー操縦技術向上のための支援事業

競技会開催

グライダーの技術を競う競技会やオンラインコンテストを開催し、滑空場、飛行機材、宿舎等施設の提供、スタッフ手配等を行っています。



競技会選手派遣支援

グライダー世界選手権(距離飛行・アクロバット)に選手を派遣するために、物心両面での支援体制を整えています。



記録飛行支援

グライダーの日本記録・世界記録に挑戦するためのプロジェクトを推進しており、結果につき研究発表等を行っています。



講習会・講演会・セミナー開催

グライダーの安全対策、啓蒙、技術発表、機材や装備品等に関する講習会、講演会・セミナーを随時開催しています。



整備士養成事業

整備士養成コース

二等航空運航整備士(滑空機)

グライダー整備士へのベーシックコース。整備の基礎をしっかりと身につけられるように、学科と実地の講習を行い、試験合格まで指導しています。



二等航空整備士(滑空機)

滑空機の小規模な保守や修理、耐空検査整備と確認ができるようになるための学科及び実地講習、試験立会いを行っています。



動力滑空機(限定変更)

二等航空整備士・動力滑空機の限定変更は、エンジン関連とランナップの技術習得が必須となり、学科及び実地講習、試験立会いを行っています。



アドバンス・整備コース

FRP修理講習会

グライダーの基本構造であるFRP修理の基礎からゲルコート仕上げまで、学科と実習を通じて、実機で修理が行える技術を指導しています。



二等航空整備士(飛行機)

グライダー運航を安全に行うためには、よく整備された曳航機が必要です。そのため、飛行機の整備士養成や整備技術の伝承を行っています。



耐空検査員養成

耐空検査員は耐空証明を発行することができます。滑空機・動力滑空機の整備士は、経験を積むと耐空検査員に推薦される資格を有しています。



その他の事業と活動

研究・調査・技術開発

グライダーの安全のための研究、技術向上のための調査、技術開発等を支援しています。画像は、JAXAの低圧チャンバー体験コース。



空域調整

近年、グライダー飛行エリアの広域化に伴い、横田、入間、下総、宇都宮、航空局等と衝突防止のための空域調整や連絡会等に参加しています。



FAI(国際航空連盟)表彰

FAIは航空スポーツの分野で功績のあった個人、団体の表彰を空の日に行っており、クラブからもこれまでに各種部門の受賞者を輩出しています。



国際シンポジウムの開催

グライダーの最先端技術を学ぶために、海外のグライダー界で活躍している講師を招聘し、国際的なシンポジウムを開催しています。



フライトサービス運営

板倉フライトサービス(130.675MHz)を運営し、板倉滑空場周辺の不特定多数の航空機を対象に、気象やトラフィックなどの情報を提供しています。



救急救命講習会

緊急時のファーストエイドが速やかに行えるよう、外部講師による人工呼吸、AEDの使用法、初期消火訓練等の講習会を開催しています。

